

## 【経営部門 優秀賞】

# 地域資源「ワインの搾りかす」を 飼料に活用

—「甲州ワインビーフ」ブランドを確立し、売上げは3億円を突破—

山梨県甲斐市

小林 輝男・小林 孝子

## 1. 地域の概要

### (1) 一般概況

甲斐市は、甲府盆地の北西部に位置し、標高 280～1,200mの中山間地域である。

(有) 小林牧場のある平見城地区は、甲斐市の北部（中心部から約 16km）にあり、西には茅ヶ岳、北に曲岳と黒富士、東は鬼類山に囲まれ、標高 1,000～1,200mの山間部に位置する。

甲斐市の気候は、甲府盆地特有の高温少雨の典型的な内陸性気候である。一日の気温較差が大きく、年間の日照時間は 2,129 時間（東京 1,847 時間）と長く、降水量は年間 1,200mm 程度と少ない。

当地区の気温は、年平均 9.9℃（年平均最高 15.9℃、年平均最低 3.9℃）と甲府盆地においては冷涼であり、こうした気象環境は、肉用牛の飼育に適している地域である。

亀沢川と御岳昇仙峡から流れる荒川に挟まれた高台にあるため、飲料水は清川簡易水道を利用し、牧草用灌漑用水は、黒富士から流れる数本の沢水を利用している。

また、牛舎で利用する水は、県有地内の取水堰堤から県との合意のもとに給水しており、災害や枯渇等の緊急時には、清川簡易水道で補うこととしている。

### (2) 地域の農業・畜産の概況

市街地から離れた当地区は、澄んだ空気と清流、森林など豊かな自然に囲まれ、肉用牛と鶏卵及び乳牛を生産する 5 戸の専門畜産農家により、県内でも有数の平見城畜産団地（約 30ha）を形成している。畜産団地西側には、別荘やキャンプ場などのリゾートエリアが隣接し、年間を通し多数の利用者が訪れている。

戦後の開拓地であるこの地区は、傾斜がきつく土地は肥沃とはいえず、生活も不便

であったことから、40戸あった開拓入居者は次々に離農したが、遊休化した開拓農地を畜産経営により再生し、現在では平見城畜産団地の中核的存在となっている。

JR中央線竜王駅や中央高速自動車道甲府昭和ICから、東京都心まで150km圏内に位置し、道路交通機関が発達している。出荷肉用牛は、山梨県内で唯一の食肉市場で、当農場から車で1時間の位置にある(株)山梨食肉流通センターでと畜処理し、「甲州ワインビーフ」として京浜市場を中心に全国の市場に流通するとともに、自己の経営する(有)美郷で県内外の消費者に直売している。

土質は、火山灰土及び砂礫土の酸性土壌である。

開拓当初は、炭酸石灰や熔成燐肥等の改良材による改良を図ってきた。近年では、飼料用牧草生産のため、自家有機堆肥を投入している。

## 2. 経営の歩み

小林輝男氏は、昭和60年に酪農経営を引き継いだが、肉用牛を導入して乳肉複合経営に転じた。孝子氏と結婚後も肉用牛の規模拡大をはかり、平成3年には(有)小林牧場を設立して肉用牛肥育の専業経営へと転換した。経営全般と飼育管理は輝男氏が、経理や労務管理は孝子氏が担当するなど役割分担を明確にして、売上高3億8600万円の大規模肉用牛経営を築いてきた。直売を担当する(有)美郷の売上高は1億5800万円である。

ワイン産地の立地条件を活かし、未利用資源であるワイン粕を有効活用して飼料代を抑えるとともに、生産された交雑種(F<sub>1</sub>)は「甲州ワインビーフ」としてブランド化して販売している。安全で美味しい牛肉を生産するため、遺伝子組み換え飼料やホルモン剤は使用せず、抗生物質を低減させるためにハーブ類を給与している。また、ハエの天敵である寄生バチの利用や羊の放牧による殺虫剤・除草剤の削減など、環境と牛の健康を重視した生産を実践している。牧場で生産された堆肥は、多くの耕種農家に供給され、地域の環境保全型農業の推進ならびに耕畜連携の一端を担っている。

肉用牛は「甲州ワインビーフ」として京浜市場を中心に全国の市場へ出荷されているが、良質な牛肉を低価格で供給するために、長男の経営する直売店(有)美郷で加工・調理され消費者へ直売するなど、生産・販売の一貫経営体制にも取り組んでいる。また、インターネットを活用した宅配など新たな販売戦略を展開するとともに、「生産情報公表JAS」の認定を受け、肥育管理記録は消費者向けにホームページで公開している。

また、生産した牛肉を学校給食に供給するとともに、牧場を開放して子どもたちに体験学習の場を提供している。また県指導農業士として多くの研修生を受け入れ、食品安全会議委員、環境保全型農業推進協議会委員など農畜産業のリーダーとしても幅広く活躍している。

### 3. 経営の実績を裏づける特色ある取り組み

#### (1) 酪農から肉用牛経営への転換とブランド化による生産・販売一貫体制への取り組み

昭和44年に山梨県立農業大学校卒業と同時に父親の酪農（乳牛10頭）経営に参画し、昭和60年には規模拡大した酪農経営（乳牛55頭）を父親から受け継いだ。牛乳の生産調整を背景に、安定した経営と規模拡大を目指して肉用牛を導入した。さらに、農業経営と家計の分離による経営基盤の強化を目的に、平成3年に（有）小林牧場を設立し、肉用牛肥育専業経営へと完全転換した。また、他産業なみの所得を目標とし、未利用資源を活用した「甲州ワインビーフ」のブランド化を成功させた。良質な牛肉を低価格で消費者に供給できるよう直売店（有）美郷を設立し、生産・販売の一貫体制に取り組んでいる。

#### (2) 耕畜連携及び未利用資源活用による資源循環型農業の実現

堆肥の生産に当たっては、市内の小学校の協力の下で学校給食の残飯を乾燥したものを水分調整材として利用している。平成13年には県内の畜産農家、耕種農家とともに「甲斐有機性資源生産利用組合」を立ち上げ、組合長に就任するとともに、最新の地域資源循環利用施設を建設し、年間3,500tもの堆肥を県内外農家に供給するなど、耕畜連携を実践している。

今後は、食品関連企業を巻き込んだ県内全域での事業展開により「生ゴミ→堆肥化→農産物生産→食品産業」という資源循環型農業の実現を目標にしている。

#### (3) 夫婦の役割分担による大規模経営の実現

経営の安定を図るため、結婚後も規模拡大を図ってきたが、家族労力では限界があることから、雇用条件の安定や社会的信用の増大などとともに、牧場経営と家計の分離を最大の理由に法人化に取り組んだ。法人化には、簿記記帳が必須であったため、孝子夫人が各種研修を受け、複式簿記記帳の知識とパソコンの操作を修得し、現在は、小林牧場の経理、労務管理はすべて孝子夫人が行っており、夫婦二人三脚で、大規模経営を実現している。

#### (4) 豊かな自然と人と農業との共存共栄

（有）小林牧場がある畜産団地は、別荘などリゾートエリアに隣接しているが、畜産団地の仲間と協力し、畜産経営者とリゾート関係者の共存を目指した環境保全運動に取り組んでいる。畜産経営者、リゾート関係者、行政との連携の中で、畜産団地とリゾート開発エリアを区分し、悪臭やハエ等害虫対策を徹底するとともに、ハエの天敵である寄生バチの利用やトンボ繁殖用の池の整備、羊の放牧による殺虫剤や除草剤

は使用しない除草処理など環境にやさしい生産活動を実践し、畜産経営・リゾート関係者との共存共栄関係がうまく図られている。

#### (5) 食育活動

「食べ物はすべて命であり、野菜も米も畑や田で生きていたものである。牛も魚も同じことで、生き物から命をいただいて自分が生きているという感謝の気持ちは絶対に必要であり、それがなければ子どもたちは命を大事にすることもできない。」との信条のもと、県の食育ネットワークに加盟し、地元の学校給食に採算度外視で「甲州ワインビーフ」を供給するとともに、子どもたちが動物と触れ合い、命の大切さを知ってもらうため、牧場の開放も行っている。

#### (6) 地域リーダーとしての活躍

地域はもとより県内外の畜産業界の牽引役として活躍し、農業後継者の確保・育成に貢献しており、山梨県指導農業士としてこれまでに多くの担い手育成（平成10年以降で農場研修生20名）に尽力している。また、山梨県食品安全会議委員（H15～）、山梨県農業技術会議委員（H15～）、山梨県環境保全型農業推進協議会委員（H10～）を務めるなど、農畜産業のリーダーとして幅広く活躍しており、平成6年に山梨日日新聞 YBS 近郊農業賞、平成13年には、毎日農業記録賞最優秀賞を受賞するなど功績は大きい。

また、孝子夫人は、地域の女性同士で、地域活性化のためのイベントを企画・開催したり、畜産経営に携わる女性組織である「山梨畜産女性ネットワーク部会」の発足に尽力するなど、社会活動などに積極的に参画している。

小林氏は、消費者との“食”を通じた交流と地域との共存という問題を相互に関連付け、肉用牛の生産から流通、販売までを自己の経営内で完結させた。しかも山梨県という地域性を活かしたワイン粕を肉用牛の飼料に利用して、低コスト生産とともに牛肉の付加価値を高めている。さらには、環境保全型農業、資源循環型農業を実践しながら牛肉の安全性を追求し、山梨県独自の地域ブランド「甲州ワインビーフ」として全国に情報発信するなど、多様な取り組みを実践している。

このような経営は、全国的にも先駆的であり、狭小な山間部でありながらビッグビジネスを成功させている経営手腕は、大規模経営体の模範的な優良事例と評価できる。

## 4. 経営・生産の内容

### (1) 労働力の構成

(有) 小林牧場

続柄	年齢	職 業	年間農業労働時間	備考 (役割分担等)
本人	57	肉用牛生産	2,240	代表取締役
妻	55	〃	2,240	取締役
父	79	小林牧場役員	0	取締役

(有) 美郷 (みきょう)

続柄	年齢	職 業	年間農業労働時間	備考 (役割分担等)
本人	57	牛肉小売業	220	代表取締役
妻	55	〃	220	取締役
長男	28	〃	2,320	専務取締役
長男の妻	30	〃	1,160	取締役

### (2) 収入等の状況

(有) 小林牧場

(単位：千円)

平成 17 年 度			
収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
売上高	347,090	売上原価	259,326
堆肥販売売上	21,966	販売費及び一般管理費	81,267
家賃収入	3,048	営業外費用	2,959
営業外収益	13,859		
前期繰越利益	129,852		
合 計	515,815	合 計	343,552
農業粗収入	385,963		
農業所得	42,411		
構成員 1 人当たりの事業所得	21,205		

(有) 美 郷

(単位：千円)

平成 17 年 度			
収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
売上高	157,210	売上原価	109,275
営業外収益	530	販売費及び一般管理費	44,008
家賃収入		営業外費用	47
		前期繰越損益	5,627
合 計	157,740	合 計	158,957
農業粗収入	157,740		
農業所得	4,410		
構成員 1 人当たりの事業所得	1,102		

(3) 土地所有と利用状況

(単位：a)

	耕地計	山林	牧野 牧草地	農用地 合計	畜舎等 施設用地
経営面積 (うち受託面積)	0 ( 0 )	0 ( 0 )	300 ( 0 )	300 ( 0 )	300 ( 0 )
受託 面積	作業受託				
	経営受託				

(4) 家畜の飼養状況

種 類	肉用牛	合 計
頭 数	1,340	1,340 頭

(5) 施設等の所有・利用状況

1) 施設関係

施設の名称	規 模	利用作物、家畜名	個人、共有の別
肥育牛舎	1,536 m <sup>2</sup> 3棟(鉄骨)、収容頭数	713頭	肉用牛
肥育牛舎	880 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨)	94 "	共有 1/3
哺育牛舎	400 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨)	66 "	共有 1/3
肥育牛舎	320 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨)	39 "	個人
育成牛舎	312 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨)	77 "	"
育成・肥育牛舎	252 m <sup>2</sup> 3棟(鉄骨)	161 "	"
哺育牛舎	250 m <sup>2</sup> 1棟(木造)	0 "	"
哺育・育成牛舎	240 m <sup>2</sup> 3棟(鉄骨)	190 "	"
育成牛舎	192 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨)	0 "	"
羊 舎	128 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨)	- "	"
	畜舎合計 8,566 m <sup>2</sup> 16棟		
堆肥舎	堆肥センター 1,998 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨・コンクリート)		共有 1/3
	堆肥舎 810 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨・コンクリート)		共有 1/3
	堆肥舎 125 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨・コンクリート)		個人
混合飼料給食センター	330 m <sup>2</sup> 1棟(鉄骨・コンクリート)		共有 1/3
物 置	200 m <sup>2</sup> 1棟		個人
事 務 所	82.5 m <sup>2</sup> 1棟		個人
バンカーサイロ	縦 2m、横 2m、長さ 12m 5基		共有
道路舗装	幅 3m、総延長 700m、アスファルト舗装		個人(農場内)

2) 機械関係

機 械 名	台 数	能 力	年間利用時間	個人、共有の別
バックホー	1	0.25 m <sup>3</sup>	300	個人
飼料攪拌機	1	6.0 m <sup>3</sup>	200	共有 1/3
サイレージ積込機	1	0.8 m <sup>3</sup>	150	共有 1/3
飼料運搬機	1	2 t	300	共有 1/3
ショベルローダー	1	0.5 m <sup>3</sup>	300	共有 1/3
ふるい機	1	-	150	個人
溶接機	1	-	200	"
マニュアルレタター	1	1.8 t	100	"
ブロアー	1	-	300	"
ダンプ	1	2 t	300	"
ダンプ	1	4 t	300	"
タイヤローダー	1	0.8 m <sup>3</sup>	300	"
タイヤローダー	1	1.5 m <sup>3</sup>	300	共有 1/3
トラクター	1	48 ps	300	個人
輸送車ウィンチ	1	-	100	"
トラクター	1	32 ps	300	"
クォーター(場内車)	1	-	400	"
ホイールローダー	1	0.5 m <sup>3</sup>	300	"

## (6) 生産の概況等

### 1) 飼養体系

	飼育ステージ	飼育管理	備考
生後 1ヵ月 ～ 2ヵ月	哺育期	肥育モト牛として農場へ導入	哺育牛舎
生後 3ヵ月 ～ 5ヵ月	育成期	乾草を主体とした飼料給与を行い、しっかりとした骨格と肥育するための餌が十分食べられる体をつくる	育成牛舎
生後 6ヵ月 ～ 17ヵ月	肥育前期	ワイン粕、オカラ、酒粕、トウモロコシ、麦等の粕類混合飼料を給与	肥育牛舎 牛肉の赤身の部分ができる時期
生後 18ヵ月 ～ 24ヵ月	肥育後期	遺伝子組み換え穀物を使わない飼料のみを給与して肥育 生後 24～25ヵ月でワインビーフとして出荷	肥育牛舎 脂肪分が肉につく時期

### 2) 飼養管理

#### ① 飼料の給与方式及び種類

混合飼料は、遺伝子組み替えのない穀物を使い、単味飼料（一般ふすま、大豆粕、トウモロコシ圧ペン、大麦圧ペン、牧草）と配合飼料は、全量をJAからの系統購入を行っている。

- ・単味飼料 年間使用量 1,400 t、購入金額約 40,000 千円

- ・配合飼料 年間使用量 2,543 t、購入金額約 90,000 千円(平成 17 年度実績)

ワイン粕は県内のワインメーカーから、年間約 700 t を購入している。(価格：200 円／4 t 車)

ワイン粕と他の単味飼料は混合飼料給食センターで配合され、飼育牛に給与されている。

	飼育ステージ	飼料の種類	備考
生後 1ヵ月 ～ 2ヵ月	哺育期	哺乳期子牛育成用代用乳用配合飼料	生後 1～2ヵ月齢の子牛を肥育モト牛として購入
生後 3ヵ月 ～ 5ヵ月	育成期	哺乳期子牛育成用配合飼料 幼令肉用牛育成・肉用牛肥育用配合飼料	乾草を主体とした給餌
生後 6ヵ月 ～ 17ヵ月	肥育前期	肉用牛肥育用配合飼料 甲州ワインビーフ混合飼料	ワイン粕・オカラ・酒粕等
生後 18ヵ月 ～ 24ヵ月	肥育後期	肉用牛肥育用配合飼料 甲州ワインビーフ混合飼料	生後 24～25ヵ月齢で甲州ワインビーフとして出荷

#### ② 畜舎の構造

鉄骨作り。(一部木造作り)

床面に敷料としてオガクズを敷き、尿はオガクズに吸着・踏み込み処理してお



り、ふん尿を吸着した敷き料は堆肥センターで堆肥化している。

### ③ 家畜のふん尿処理方法

肥育期間中のふん尿は牧場内の堆肥センターに運ばれ、学校給食で出た食品残渣を乾燥させたものも堆肥化のためのふんの水分調整材として利用しながら、スクープ方式による繰り返し発酵処理により良質な堆肥を製造している。

堆肥センターには1日20～30tのふん尿が運び込まれ、約40日かけて繰り返し発酵させていくことで良質な有機肥料が作られる。

(生ふんの処理量7,000t/年間、堆肥の製造量3,500t/年間)

製造された堆肥は、平成13年に県内畜産農家(3戸)、耕種農家(耕種部会、末端で数百戸)とともに立ち上げた「甲斐有機性資源生産利用組合」を通して、県内だけでなく県外の多くの耕種農家に供給され、環境保全型農業及び耕畜連携という資源循環型農業生産の輪の一端を担っている。

(県内での流通量2,800t、県外への堆肥の流通量700t)

### 3) 経営状況

経営の法人化により、意欲ある若いスタッフ8名の雇用や施設の再整備、近隣遊休農地3haの借り入れなど経営改革を行い、肥育牛1,340頭の肉用牛肥育専業経営へと経営規模を拡大した。雇用の確保と夫婦の役割分担の明確化により、夫婦の年間労働時間は1人あたり4,000時間から2,240時間へと縮小し、ゆとりある経営を実現した。また、安定した収益の確保により借入金も順調に返済しており、今後は肉用牛飼育頭数2,000頭規模の経営を目指している。

また、「甲州ワインビーフ」の販売に係る中間経費を削減し、良質な牛肉を低価格で供給するため、直売店である(有)美郷の出店(県内に2店舗)による生産者と消費者相互のふれあいとともに、インターネットを活用した双方向での情報の発信や宅配など新たな販売戦略を展開している。

販売部門である(有)美郷の経営は長男に任せ、「甲州ワインビーフ」の生産・販売一貫体制の規模拡大に向けグローバルな視点で経常に取り組んでいる。

	(有) 小林牧場	(有) 美 郷
1. 設立年月	平成3年4月17日	平成14年11月7日
2. 形 態	有限会社	有限会社
3. 役員数	3名	4名
4. 資本金	15,000千円	3,000千円
5. 設立目的	(1) 牧場の経営 (2) 肉用牛の飼育販売 (3) 堆肥の生産販売	(1) 食肉の販売 (2) ハム、ソーセージなど食肉製品販売 (3) 乳製品の販売
6. 事業内容	(1) 甲州ワインビーフの生産・出荷 (2) 耕種農家と統合した堆肥の生産・販売	(1) 甲州ワインビーフの販売 (2) 安全・安心・美味をモットーとした直売の実施
7. 所在地	山梨県甲斐市上芦沢 1339	山梨県甲斐市島上条 3077 ・(有) 美郷 甲斐島上条本店 山梨県甲斐市島上条 3077 ・(有) 美郷 甲府大里店 山梨県甲府市大里町 1566-1

#### (7) 経営の実績・技術等の概要

##### 1) 生産量及び販売額の推移

###### (有) 小林牧場

区分	年 度	項目 作付面積 頭 羽 数	生産量	単位当たり 生産量	販売量	販 売 額		共販の 形 態
						計	うち共販額	
肉 用 牛	平15年	1,305頭	688頭	24~25ヵ 月齢出荷	688頭	284,562千円		全頭JA 系統出荷
	平16年	1,327頭	688頭	24~25ヵ 月齢出荷	688頭	340,468千円		全頭JA 系統出荷
	平17年	1,340頭	687頭	24~25ヵ 月齢出荷	687頭	347,090千円		全頭JA 系統出荷

###### (有) 美 郷

区分	年 度	項目	販 売 額		共販の 形 態
			計	うち共販額	
食 肉 等 販 売	平15年		40,343千円		
	平16年		73,227千円		
	平17年		157,740千円		

2) 経営実績  
 (有) 小林牧場

(単位：円)

平成 17 年 度	
費 目	金 額
【売上原価】	259,325,690
製造原価	259,325,690
〔材料費〕	△1,211,690
期首材料棚卸高	2,727,200
期末材料棚卸高	△3,938,890
〔労務費〕	27,960,279
賃金給料	22,613,600
雑給	314,000
賞与	4,729,080
福利厚生費	303,599
〔外注加工費〕	5,923,809
堆肥処理料	5,923,809
〔経費〕	241,104,626
飼料費	124,472,923
モト畜費	98,904,620
諸材料費	4,308,859
減価償却費	4,541,733
動力光熱費	2,287,447
消耗品費	1,699,376
研修費等	57,810
衛生費	4,273,716
作業用衣料費	6,410
修繕費	551,732
総製造費用	273,777,024
期首仕掛品棚卸高	187,130,666
期末仕掛品棚卸高	△201,582,000
【販売費及び一般管理費】	81,266,956
役員報酬	25,080,000
法定福利費	5,431,497
減価償却費	5,279,685
賃貸料	3,883,045
保険料	5,942,402
水道光熱費	1,809,275
租税公課	2,319,416
支払手数料	19,853,096
その他	11,668,540
【営業外費用】	2,959,357
支払利息割引料	2,959,357
合 計	343,552,003

(有) 美 郷

(単位：円)

平成 17 年 度	
費 目	金 額
<b>【売上原価】</b>	109,275,760
当期商品仕入高	111,712,658
期首商品・製品棚卸高	2,824,294
期末商品・製品棚卸高	△ 5,261,192
<b>【販売費及び一般管理費】</b>	44,008,547
役員報酬	5,280,000
給料手当	19,342,045
賞与	1,610,000
法定福利費	2,531,430
荷造り運賃発送費	2,978,251
広告宣伝費	70,048
賃借料	2,285,737
水道光熱費	1,749,824
租税公課	178,954
支払手数料	808,240
減価償却費	1,989,802
その他	5,184,216
<b>【営業外費用】</b>	47,554
支払利息	8,665
雑損失	38,889
合 計	153,331,861

3) 生産指標

(有) 小林牧場

		農業部門	
		肉用牛	
労働総計			
計		19,880 時間	19,880 時間
構成員	男	2,240	2,240
	女	2,240	2,240
雇 用	男	13,475	13,475
	女	1,925	1,925

(有) 美 郷

		農業部門		牛 肉
		労働総計		販 売
計		26,213 時間		26,213 時間
構成員	男	2,320		2,240
	女	1,160		1,160
雇 用	男	13,200		13,475
	女	9,533		9,533

	経 営 概 要		生 産 性 指 標							
	飼料生産 作付け延 べ面積  (ha)	ふん尿処理 方式	牛				人			経 営
			肥育 開始 時月 齢	出荷 月 齢	出荷 時体 重	1日 当り 増 体重	生産コスト	勞 働		
							肥育牛 1頭当 たり費 用合計	1頭当 たり勞 働時間	主たる 従事者	
当該経営 指標	3.0	ふん尿混合 堆肥化	6.0 ヶ月	24 ～ 25 ヶ月	650 ～ 700 kg	0.90 kg	290 千円	14.8 時間	2,240 時間	2,120 万円
生産指標	2.5	ふん尿混合 堆肥化	7.8 ヶ月	27 ヶ月	725 kg以上	0.80 kg以上	294 kg以上	25 時間以下	2,300 時間以下	350 万円以上

(注) 1. 山梨県酪農・肉用牛生産近代化計画書指標 (計画期間平成17年度～平成27年度)  
2. 生産コストについては、育成牛1頭当たりモト畜費を除く費用合計

## 5. その他、農業経営の現状について特記すべき事項

### (1) 生産コストの低減とブランド化

日本を代表するワイン産地という立地条件を活かし、未利用資源である大量のワイン粕を飼料として有効に活用することで、飼料代を従来の3分の2に抑える経営に成功した。また、ワイン粕を飼料として生産された肉用牛を「甲州ワインビーフ」と命名するとともに、小林氏が中心となって生産者仲間と「甲州ワインビーフ生産普及組合」を設立し、「甲州ワインビーフ」のブランド化を図った。

### (2) ブランド化による市場の優位性

「甲州ワインビーフ」は、市場においてその品質が評価され、肥育牛取引価格は小

林氏が主導権を握っている。その結果、枝肉取引価格では他の一般的な肉用牛（交雑種）に比べ1 kg 当たり 100～150 円も高く、平成 17 年度粗収入は平成 15 年度比 124% と順調に経営改善が図られている。

### （３）夫婦による協同経営

夫婦で朝早くから夜遅くまでともに飼育管理などを行い経営の拡大に努めてきたが、さらなる規模拡大を図るため、牧場経営と家計を分離し、経営状況の把握・分析・改善を目指した。このため、簿記記帳が必要となり、孝子夫人が２年間かけて複式簿記記帳とパソコンによる管理をマスターし、現在は、小林牧場の経営全般や飼育管理などを輝男氏が担当し、経理や労務管理などを孝子夫人が担当するなど、役割分担を明確にし、安定経営を実現している。

### （４）消費者ニーズに応える経営

消費者に安全で美味しい牛肉を提供するため、飼育管理では遺伝子組み換え穀物飼料やホルモン剤の類は一切使用せず、抗生物質を低減させるためにハーブ類を給与し、健康な肉用牛の肥育を最優先している。こうした肥育管理は、「生産情報公表 J A S」の認定により、消費者に全ての肉用牛の生産情報としてホームページで公開している。

### （５）J A との連携（平成 17 年度実績）

連 携 内 容	取 扱 量	取 扱 額	取 引 先
飼料（単味、配合飼料）の購入	3,943 t	130,000 千円	全農山梨
肥育モト牛の導入（系統取引）	737 頭	100,000 千円	静岡県三島市場
肥育牛（甲州ワインビーフ）の出荷	687 頭	347,000 千円	食肉流通センター